

## 旅の途中



### 上川裕子

タカラベルモント(株)開発本部  
[542-0083] 大阪市中央区東心斎橋2-1-1  
マネージャー, 博士(工学).  
専門は超分子化学, 化粧品化学, ケミカルバイ  
オロジー.  
yuko.kamikawa@takara-net.com

<http://www.takarabelmont.co.jp>

女性が全体の1~2割でしかない工学部で博士号を取得、オランダでポスドクとしてキャリアをスタートした。もうアカデミアで研究の道を突き進むしかないよね？と自分も周囲も思っていた。なのに新卒で1度も就活をしなかった自分が3度転職した。2016年に今の会社に拾ってもらって4年が経つ。チームに恵まれ、今でも研究を続けている。おかげさまで最長勤務記録を更新できそうだ。

最初の転職はポスドクの任期を終えるタイミングで、海外からの求職活動だった。産業界での研究を知り、技術が社会に具現化する過程を見たいと思い、海外経験を強みにできるだろうと外資系化粧品メーカーの研究職を志望した。調整はエージェント頼み。学会のための一時帰国に合わせて面接を組んでもらい、最終面接はオランダから直接フランスの本社に移動して受けた。

2度目の転職は家庭事情に起因する。入社2年後に結婚した夫とはスタートから西と東の別居婚で、出産年齢を意識したタイミングで同居を決意した。そのとき、企業ではなく再度大学に戻ったあたりから、私の経歴が本格的に常道を外れ出した。当時自分の発想に行き詰まっていたこともあり、この機に専門性を増やしたい、と阪大菊地研の門戸を叩いた。2年目に特任助教にご採用いただき、産後は生後3カ月で子供を保育園に預けて復職した。頼みの綱の夫の育休は叶わなかった。代わりに2週間の在宅勤務をもぎ取ってもらって(乳児の育児と在宅勤務が両立しないことは緊急事態宣言下、多くの親御さんが痛感したことだろう)慣らし保育期間を乗り切り、授乳スペース完備・冷凍母乳受入・看護師常駐の学内保育園に助けられ、研究室では学生から先生方に至るまで子守をしていただいた。本稿の諸先輩方の例に漏れず大変な時期だったが恵まれていたと思う。

3度目の転職は我儘を通し、求職活動は地獄絵図となった。大学でキャリアを積むと、移動を避けられないことがある。なのに別居婚も経験済の自分が、母子赴任も単身赴任もどうしても嫌だと強く思った。大した業績も上げられず、夫に仕事を辞めてついてきてと言える状況でもなかった。葛藤の末、いま家族3人一つ屋根の下で暮らせなければ私の幸せはない、と選択し

た。夫と同居可能な勤務地に絞りこみ、要件を満たす研究職に応募したが、36歳乳児持ち、経歴はどっちつかず。それはそれは落とされまくった。エージェントも首をひねるほど履歴書が通らない。業種と職種の幅はすぐに広げざるを得なかった。平行して保活が加わった。学内保育園は職員でなくなれば即退園。任期の切れ目に保活するとポイントが無職扱いとなるうえ、子供は1歳児の激戦枠だ。自分も子供もどこにも行き場がない現実と無力感に、子供を抱きしめて泣いた。そして、ひとりじゃどうにもできない状況にあると悟った。

自分が人より持っているものは何だろう？多業界を渡り歩いた自分だけの人脈だ。恩師、友人、片っ端から連絡を取り、激励も叱責も口添えもいただいた。自分の会社の上司に履歴書を回してくれたり、自分が使った転職サービスを紹介してくれたり、履歴書に辛口のコメントをくれたり、本当にありがたかった。今の会社にご縁を繋いでくれたのは前職の上司である。保育園は新設園に的を絞り(ほかに入れてもらえるところなどない)、現職の選考途中で入園が決まって、滋賀に転居した。当時の人事取締役が絶句した挙句、『それじゃ通えないじゃん！……まあいいや、何とかします』で最終面接が終わり、蓋を開けてみたら、『大阪の開発本部所属、常勤先は滋賀工場』という異例のテレワーク体制を作っていた。感謝してもしきれない。

つくづく実感するが、人生に無駄な経験などない。巡り巡って現在、ようやく迷走の果てのすべてのキャリアが役立っていると感じる。本稿は転職の勧めではないが、転職経験者の強みは、人生の節目で自分の資産の棚卸をしていることと、自分のキャリアを社会の中で俯瞰して眺めた経験だ。あなたのキャリアはあなただけのもので、一つの道をまっすぐ突き進むのも、寄り道近道迷いながら進むのも自由だ。どちらに行っても障害はあるし、一人で越えられなければ助けてと声を上げよう。私も一つ決めたことがある。頼まれた仕事は断らない。目の前の仕事に真摯に取り組むことが、私の中に形のない資産を増やし、将来を支える礎となる。人生120年時代100歳まで働きたい私も、まだ旅の途中だ。